

「合わせた指導」グループ

<山目校舎なのはなグループ>

櫻井瞳、本正千夏、佐々木千尋、石川則子、鎌田円、
昆七重、千田徳也、村上綾、奥村周祐、千田萌乃

<作業学習グループ>

中学部：大崎裕子 高橋真菜 土田江利子 佐藤里美
高等部：藤澤りつ 鎌田雅彦 佐藤蘭子 宍戸武美
田村友子 佐藤由紀子 吉田恵理子
菊池陽子 関根ひさ子 村上徳彦

1 研究テーマ

生きる力、生活する力、働く力を育む指導について、キャリア教育全体計画をふまえた実践を通して共通理解を図る。

<テーマ設定理由>

本グループは、第一年次においては小学校段階における「遊びの指導」、中学部段階における「生単」「作業学習」、高等部段階における「作業学習」に課題を据えて研究を進めてきた。今年度はそれぞれのキャリア教育全体計画を踏まえて、実践と結果、考察を加えての授業計画へというようにフィードバックを意識した研究を行う。また授業実践の検討を主としながら、様々な工夫と創意を加えた授業づくりを行い、それを紹介できる形でまとめていきたい。

2 研究内容

<山目校舎なのはなグループ>

テーマ「やってみよう やりたい やったあとという授業を目指して
～キャリア発達を促す支援を通して～」

- ①学習会等を通して「キャリア教育」の捉えを確認する。
- ②学校、学部目標を見直し、なのはな学級の子どもたちの「卒業時に願う姿」を検討する。
- ③上記からなのはな学級の子どもたちの「キャリア発達」とは何かを検討する。
- ④キャリア教育全体計画を確認する。
- ⑤授業実践や今までの実践の振り返りにより「キャリア発達」を促すために有効な授業づくりを検討する。

<作業学習グループ>

テーマ「キャリア教育全体計画を踏まえた実践の共通理解と認識を求めて」

授業の様子をビデオ実践事例紹介としてまとめ、各々の資料に基づいて協議を行う。

昨

年度課題としてあげられた「多角的な視点からの検証」を踏まえて、中学部と高等部の全

ての授業実践について見合い、目標達成のために有効的な支援方法について検討することとした。

- ①高等部（農耕環境班・陶芸班）
- ②中学部（作業学習・家政班）
- ③高等部（リサイクル班・縫製班）
- ④高等部（調理班・木工班）

3 研究計画

	山目なのはなグループ	作業学習グループ
5月	各グループで、小グループ作成の上、テーマ、研究内容を決定する。	
	キャリア教育とは（参考資料を用いた学習）	
6月	学校目標、キャリア全体計画等の見直し テーマの検討 なのはなのキャリア教育の捉え 事前研の指導案検討 キャリア教育の学習会（ネット動画を用いて）	
7月	事前研 授業研究会 事前研の授業のまとめ、評価について	小グループでの研究実践検討②
8月	課題別グループ内での研究内容を確認する。	
9月	各学級の授業実践の整理 東北特研にむけた授業検討	小グループでの研究実践検討③
10月	各学級の授業実践の整理 東北特研にむけた授業検討、特研の指導案検討	小グループでの研究実践検討④
12月	東北特研の授業のまとめ、各学級の授業実践のまとめ 小グループのまとめ	小グループ内での研究実践をまとめる。
1月	課題別グループ内での研究実践をまとめる。成果と課題についてもまとめる。	

4 成果と課題

(1) 成果

- ・児童生徒の「生きる力」「生活する力」「働く力」は相互のつながりがあるという観点に立って日々の授業を見直すことができた。その中でも特に行ってきた支援を参加者全員で振り返ることによって、支援の幅を広げたり、質を高めたりすることが

できた。

- ・＜山目なのはなグループ＞では、キャリア発達の姿を、社会の中で、自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程と捉えた。＜作業学習グループ＞においてもキャリア教育としてまず取り組まなければならないのは、生徒の働くことへの意欲を持たせることと共通の認識としている。児童生徒が満足感を得ること、さらに意欲を高め、次の主体的な活動へとつながるという認識を持ち、日々の私たちの実践が正にそれであるという確信を持ってこれからのキャリア教育活動に邁進できるであろう。

(2) 課題

- ・キャリア教育全体計画をふまえた指導をしているかということについて年度毎の確認が必要である。
- ・キャリア教育の計画の中で、保護者との連携や家庭での実践など必要不可欠な要素がある。研究の中では日々での授業研究が主となるため、多くの職員が課題だと感じていても、そのことに焦点を当てて研究が取り組めてない実状がある。